

令和7年度和歌山県地域と学校の連携・協働体制推進事業に関する報告

背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度にお ける取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標 （アウトカム）	目標の達成度を 測る指標	現 状 の 数 値	単 位	本 年 度 の 目 標 値	本 年 度 の 実 績 値	アウトカムの達成度に関する評価・分析 （事業における成果、課題、改善点等）
現在、3つの地域（鮎川、龍神、稲成）でふれあいスクール（放課後子ども教室）を運営している。 1026.91km ² という広い市域の中で各地域を取り巻く状況はそれぞれ異なるが、市全体として少子高齢化・核家族化をはじめとする社会情勢の変化により、世代間交流の減少や地域社会における人間関係の希薄化が進み、伴って家庭や地域の教育力低下が懸念される中、次の世代を担う子供たちが心豊かにたくましく成長できるような体制や環境づくりが求められている。	3つの地域（鮎川、龍神、稲成）において、多様な経験を持つ地域の方々を協働活動リーダーや協働活動サポーターとして配置し、子供たちに工作やスポーツなど様々な体験・交流・学習活動の機会を提供する。	体験・交流・学習活動について、より多くの児童の参加が得られるよう、参加児童の少ない企画は児童の希望を取り入れるなど、内容の変更を含めて検討した上で実施する。 対象児童だけでなく地域に向けた周知を行うことで、協力いただける地域住民の増加にも努める。	事業を通じて、次の世代を担う子供たちが心豊かにたくましく成長する。 また、子供たちと大人の交流が生まれ、地域コミュニティが充実する。	ふれあいスクール（放課後子ども教室）への参加児童数（全体延べ人数）	412	人	430	429	令和7年度は2つの地域（龍神、鮎川）で事業を実施、稲成地域においては事業を企画し募集をかけたが参加申込がなく中止となった。 本年度の実績値は429人となり、僅かに目標値に届かなかった。 各教室においては、地域の人材や自然環境などそれぞれの特色を生かしながら、各家庭では体験することが難しい多様な体験・交流・学習活動に触れる機会を参加児童に提供した。 より多くの児童に参加してもらえよう、本年度も小学校を通じて対象児童にチラシを配布したほか、参加児童に対する声掛け（次回内容を周知し、参加していない友だちにも参加を促してもらう等）を行った。 複数学年を対象に募集をかけた企画や、児童の希望を取り入れたプログラムを実施した結果、参加児童数が昨年度よりも約1割増加となった地域もあった。また、関わってくれているサポーターの方々（地域の大人）を参加児童が「ちい先生（地域の先生）」と呼んで、交流を楽しむ姿も多く目にするのができたほか、サポーター同士のつながりも強くなり、学校からの要望を受けて、授業のサポーターとしても進んで参加・協力してくれる方が増えてきている地域があるなど、好循環も生まれている。 一方、稲成地域では、令和6年度における参加児童及び教員の評価・意見を踏まえ、令和7年度も冬季の自然観察会を企画・募集したが、参加申込がなく中止となった。令和7年度は全国的に熊の出没に関する報道が多く、山の中に入るのが怖いという意見も一部の保護者からあったと聞いており、参加申込がなかった一つの要因と捉えている。 児童数の減少傾向や立地的な条件など地域を取り巻く状況を踏まえると、参加児童数の更なる増加は難しいと思われるが、引き続き事業の周知に努めながら、児童の希望を取り入れた企画の検討や地域住民を巻き込んでいくための工夫など、より効果的な実施に向けて地域・学校との協力を進めていくことで、より多くの児童に多様な体験・交流・学習活動に触れる機会を提供していきたい。